

日医工医療行政情報

<https://stu-ge.nichiiko.co.jp/>

「経済財政運営と改革の基本方針2021【骨太の方針】 ～多剤・重複投薬への取り組み強化編～」

作成：日医工株式会社（公社）日本医業経営コンサルタント協会認定 登録番号第6345号 寺坂裕美

参考資料：2015年6月30日	「経済財政運営と改革の基本方針2015」	2016年6月2日	「経済財政運営と改革の基本方針2016」
2017年6月9日	「経済財政運営と改革の基本方針2017」	2018年6月15日	「経済財政運営と改革の基本方針2018」
2019年6月21日	「経済財政運営と改革の基本方針2019」	2020年7月17日	「経済財政運営と改革の基本方針2020」
2021年6月9日	「経済財政運営と改革の基本方針2021（仮称）原案」	2021年6月18日	「経済財政運営と改革の基本方針2021」
2021年7月14日	中医協総会資料総-5「調剤（その1）」		

凡例

診療側（1号）

支払側（2号）

公益側（3号）

MPSコメント

資料No.20210728-1135(2)-1

本資料は、2021年7月14日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したものです。その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます

資料のポイント

- ①6月18日に「骨太の方針2021」が閣議決定され、
多剤・重複投薬への取り組み強化について言及されています。
- ②多剤・重複投薬への取り組みについては6月9日の原案にはなかった
「かかりつけ薬剤師・薬局の普及を進めるとともに、」の文言が追加されました。
- ③「多剤・重複投薬」については、骨太の方針2015から記載されており、
その後の診療報酬・調剤報酬改定にも影響しており、
2022年度改定に向けての議論でも検討項目として挙げられています。
- ④今後は、**電子版お薬手帳の活用**や、
オンライン資格確認を活用した薬剤情報の閲覧(2021年10月開始予定)、
電子処方箋(2022年夏ごろ本格運用予定)への対応が重要になると考えます。

「骨太の方針2021」閣議決定（2021年6月18日）

- 6月18日に「骨太の方針2021」が閣議決定され、多剤・重複投薬への取り組み強化について言及されています。

2. 社会保障改革

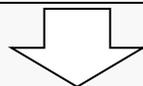
（1）感染症を機に進める新たな仕組みの構築

かかりつけ薬剤師・薬局の普及を進めるとともに、**多剤・重複投薬への取組を強化**する。

- 多剤・重複投薬への取り組みについては6月9日の原案にはなかった「かかりつけ薬剤師・薬局の普及を進めるとともに、」の文言が追加されました。

【6月9日原案】

多剤・重複投薬への取組を強化する。



【6月18日閣議決定版】

かかりつけ薬剤師・薬局の普及を進めるとともに、多剤・重複投薬への取組を強化する。

かかりつけ薬剤師・薬局の普及が進むことにより、医薬連携、薬薬連携による多剤・重複投薬への取り組みが強化されることが期待されていると考えられます。

多剤・重複投薬対策のキーパーソンはかかりつけ薬剤師！

骨太の方針 重複投薬に関する内容

■ 重複投薬については骨太の方針2015から記載されており、その後の診療報酬・調剤報酬改定にも影響を与えています。

	骨太の方針(重複投薬等に関する記載)	診療報酬・調剤報酬改定
2015	外来医療費についても、データに基づき地域差を分析し、重複受診・ 重複投与 ・重複検査等の 適正化 を行いつつ、地域差の是正を行う。	
2016	医療費適正化計画においては、(略) 重複投薬の是正に関する目標 やたばこ対策に関する目標、予防接種の普及啓発施策に関する目標等の設定を行い、取組を推進する。 医薬品の適正使用の観点から、 複数種類の医薬品処方 の 適正化 の取組等を 実施 する。	【診】薬剤総合評価調整加算、 薬剤総合評価調整管理料 (連携管理加算)の新設 【調】重複投薬・相互作用等防止加算の見直し 在宅患者重複投薬・相互作用防止管理料の新設
2017	重複投薬や多剤投与の適正化 について、医師、薬剤師それぞれの役割を踏まえ、保険者等と連携した取組を推進するとともに、高齢者の生活習慣病治療薬等の重複投薬や多剤投与を含む処方の在り方について検討	
2018	レセプト情報を活用し、本人同意の下、医師や薬剤師が投薬歴等を閲覧できる仕組みの構築や、診療報酬での評価等により、 多剤投与の適正化を引き続き推進 する。	【診】薬剤総合評価調整加算算定可能病棟の追加 (地域包括ケア病棟) 【調】重複投薬・相互作用等防止加算、在宅患者重複投薬・相互作用防止管理料の見直し、 服用薬剤調整支援料の新設
2019	診療報酬等について、高齢者への多剤投与対策 、生活習慣病治療薬の費用面も含めた適正な処方の在り方については引き続き検討を進める。	
2020	記載なし	【診】薬剤総合評価調整加算の再編 【調】服用薬剤調整支援料の再編
2021	かかりつけ薬剤師・薬局の普及を進めるとともに、 多剤・重複投薬への取組を強化 する。	
2022		【診】薬剤総合評価調整加算の見直し？ 薬剤総合評価調整管理料の見直し？ 【調】重複投薬・相互作用等防止加算の見直し？ 服用薬剤調整支援料の見直し？

本資料は、2021年7月14日迄の情報に基づき、日医工（株）が編集したものです。その正確性等について保証するものではありません。本資料のご利用により、直接または間接に損害が発生したとしても、一切の責任は負いかねます。

2021年7月14日中医協総会での議論

現状と課題：高齢者では、6剤以上の投薬が特に有害事象の発生増加に関連している。
 高齢者の多い地域包括ケア病棟の患者は6剤以上の内服薬を服用している患者が多く、
 退院時に薬剤調整が行われることが多かったとの報告がある。

ポリファーマシーに対する取組に係る診療報酬上の評価

1. 医療機関における減薬等の評価

○入院患者に対する**ポリファーマシー解消の取組**の評価

- 入院時にポリファーマシー状態にある患者に対して、内服薬の総合的な評価及び変更の取組の評価と、減薬に至った場合を評価

【入院時】
6種類以上の内服薬

薬剤総合評価調整加算 → 更に → 薬剤調整加算

【退院時】
→100点 → 2種類以上減少 →150点

- 多職種でカンファレンスを実施し、内服薬の変更、中止を行う
- 患者に対して処方変更に伴う注意点を説明し、病状の変化等について多職種で確認する

○外来患者に対する**減薬**の評価

- 多剤服薬を行っている患者に対して、受診時に内服薬が減少した場合を評価

【受診前】
6種類以上の内服薬

医療機関 → 薬剤総合評価調整管理料 → 薬局と連携 → 連携管理加算

【受診後】
2種類以上減少 →250点 →50点

※ポリファーマシーとは、単に服用する薬剤数が多いことではなく、それに関連して薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアランス低下等の問題につながる状態を指す（多剤服用の中でも書かなすものはポリファーマシー）

2. 薬局における減薬等の評価

○薬局の**減薬の取組**の評価

- 薬局が医師に減薬の提案を行い、その結果処方される内服薬が減少した場合の評価

【提案前】
6種類以上の内服薬

患者 → 処方箋 → 調剤・服薬指導 → 薬局

①文書で提案 → ②処方へ反映

医療機関 → 処方箋 → 薬局

服用薬剤調整支援料1

【提案後】
2種類以上減少が4週間継続 →125点

○薬局の**重複投薬解消の提案**の評価

- 薬局が医師に服用薬の一覧表を作成し、重複投薬等の解消の提案した場合の評価

【提案前】
6種類以上の内服薬

患者 → 処方箋 → 調剤・服薬指導 → 薬局

報告書の送付 → 医療機関

服用薬剤調整支援料2

- 服用薬の一元的把握
- 重複投薬等の解消に係る提案 →100点

○外来患者の**重複投薬等に関する疑義照会**に関する評価

- 薬局から医師へ重複投薬等に関する疑義照会を行い、処方内容が変更された場合の評価

重複投薬・相互作用等防止加算 →40点

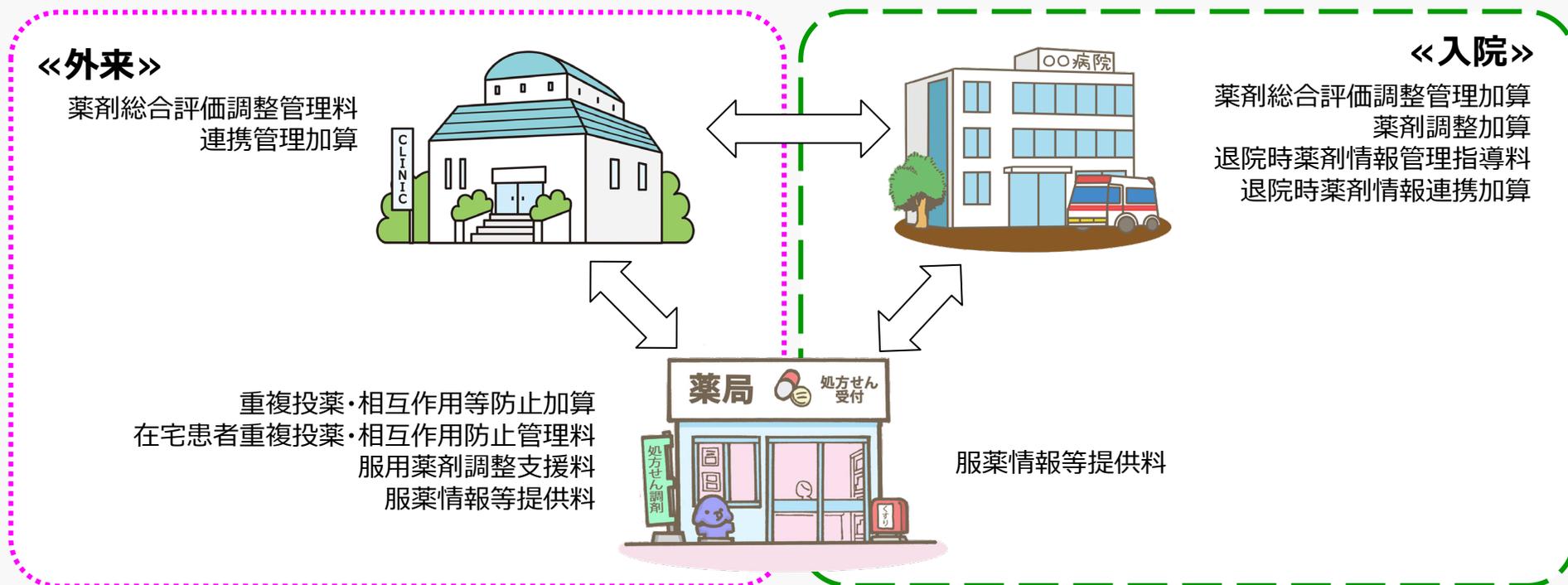
診療側意見
 ポリファーマシーを解消するための**厚労省の指針等の活用**について、何らかの診療報酬の算定要件にするようすべき

公益側意見
 ポリファーマシー対策に薬の一元管理は欠かせない一方で**かかりつけ薬局が普及していない**
 鍵はデータの一元化であり、**OL資格確認による薬剤情報の活用は有効に進めていくべきだがどう進めるかも大事**

ポリファーマシー対策推進のための具体的な議論は、秋以降に進められます。

多重・重複投薬への取り組み強化

■ 多剤・重複投薬への取り組み強化のためには、
病院・診療所・薬局間での薬剤に関する情報共有の推進がより重要になると考えられます。



【今後、重要と考えられる対応策】 ICT化への対応

- 電子版お薬手帳
 - オンライン資格確認による薬剤情報の閲覧（2021年10月開始予定）
 - 電子処方箋（2022年夏頃に本格運用予定）
- への対応が重複投薬対策の重要なポイントの一つになると考えます。



日医工がお届けする **Stu-GE** は、

医療従事者の方のための医療行政情報サイトです。

ご覧頂ける
テーマ別
情報一覧

- 診療報酬改定関連の速報情報
- 診療報酬点数の施設基準や算定要件の情報
- 調剤報酬全点数情報
- 地域連携薬局、専門医療機関連携薬局の施設基準
- DPC/PDPS関連 新規薬価収載に係る包括評価対象外薬剤一覧
DPC公開データを用いた各種医療圏分析
- その他医療制度に関する情報

会員登録は、**無料**

いますぐ、会員登録サイトで登録を!!

会員特典1 → メールマガジンの受信

会員特典2 → 会員限定コンテンツの閲覧

スマートフォンで簡単登録

パソコン画面で入力



<https://stu-ge.nichiiko.co.jp/registrations/index>